

事業前の写真（その1）事業地の状況



事業地はエーヤワディ川の河口デルタ地帯で、村落は使用河川沿いまたは縦横に流れる河川の狭間に位置し、住民の主たる交通手段は舟である。



毎年のようにサイクロンによる被害や大雨による洪水や災害が頻発している。特に、2008年5月に襲来したサイクロン・ナルギスにより、死者・行方不明者 13万8千人を超える甚大な被害が発生した。被害を大きくした要因の一つは緊急時の情報伝達手段の未整備が挙げられている。早期予警報体制の確立、安価な予警報システムの整備などが急務とされている。



乾季と雨季で水嵩が変わっても使えるように工夫した栈橋



雨季には水嵩が増し使えなくなる道路

事業前の写真（その2）



村の週間天気表示版



CA システム支援説明に聞き入る村人



ボガレイ郡で見た電気店（スピーカーやバッテリーを販売）



サイクロン・ナルギス（2008. 5）で倒された巨木の前で3世代家族写真



電気、水道、電話などインフラは一部をのぞき未整備であり、サイクロン・シェルターを作っても、住民へ緊急時の避難情報等の伝達がむずかしい状況にある。